

令和4年度 財務の概要

福岡北九州高速道路公社

目 次

1. 会計処理の特徴	1
2. 償還準備金積立方式のしくみ	2
3. 収支状況	3
4. 営業中道路の収支状況	5
5. 財務状況	6
6. 償還準備金の積立状況	8
7. 長期借入金の残高状況	9
8. 償還計画と実績の対比	10
9. キャッシュフロー計算書	11
10. 料金収入・通行台数・供用延長の推移	12
11. 供用実績	13

1. 会計処理の特徴

公社では、財政状態や経営成績を明らかにするため、企業会計原則に準じた会計処理を行っています。

＜根拠法令等＞ 地方道路公社法、同法施行規則、福岡北九州高速道路公社会計規程、同規程実施細則

有料道路制度の会計の特徴は

- 有料道路事業制度は、借入金により道路を建設し、お客様からの料金収入により定められた期間内に償還し、償還完了後は無料開放する制度です。
- 毎年度の『収支差』（収入と費用の差）は全て投下資金（借入金）の償還に充当します。

借入金の償還状況を適切に把握するために

- 福岡北九州高速道路公社は、利益を配当する義務がなく、法人税法上の公共法人であるため、法人税を課せられたりすることがなく、収支差の全てを償還に充当します。
- 有料道路事業制度は、無料開放を実現するとの観点から、借入金の償還状況を会計処理において適切に把握するため、新たな設備投資資金を積み立てるという企業会計上一般に採用されている減価償却費を計上する方式は採用していません。

償還準備金積立方式を採用

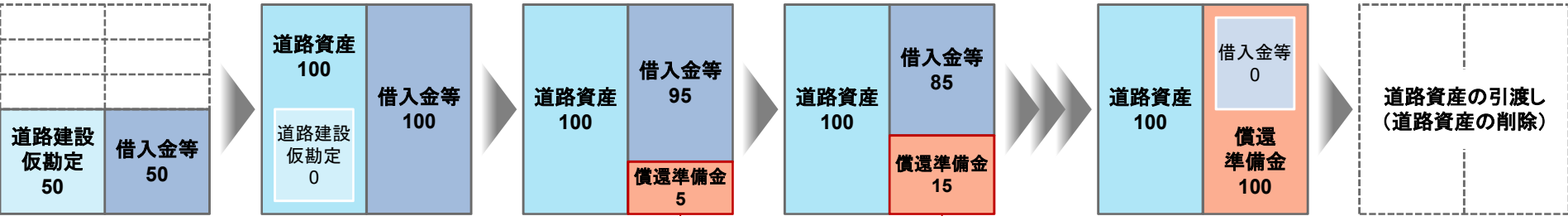
- 借入金の償還に充てられる各年度の『収支差』を『償還準備金繰入』として費用計上し、その累計額を『償還準備金』として負債に計上する方式を採用しています。
- 道路の資産を形成するのに要した費用を積み上げた『道路資産』と借入金の返済に充てる『償還準備金』を対比することにより、償還状況が明確に把握できます。

2. 償還準備金積立方式のしくみ

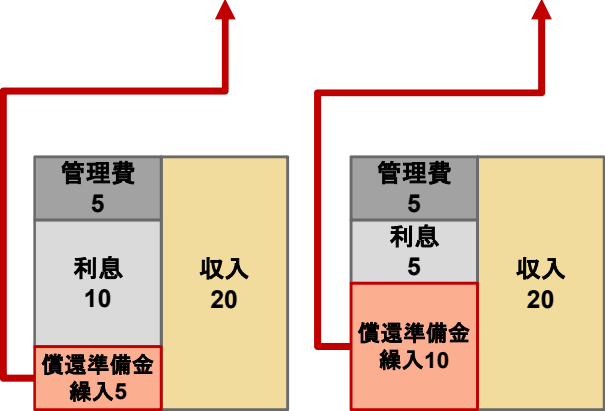
公社の貸借対照表と損益計算書にみる償還準備金積立方式のしくみ



■ 貸借対照表



■ 損益計算書



3. 収支状況

令和4事業年度損益計算書 (令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

(単位:百万円)

費用の部				収益の部			
勘定科目	R4年度	R3年度	増減額	勘定科目	R4年度	R3年度	増減額
	A	B	A-B		A	B	A-B
経常費用	59,844	55,974	3,870	経常収益	59,867	56,004	3,863
事業資産管理費	20,059	16,889	3,170	業務収入	59,634	55,926	3,708
福岡高速道路管理費	14,612	11,965	2,647	道路料金収入	59,022	55,321	3,701
北九州高速道路管理費	5,309	4,797	513	(福岡高速道路)	42,339	39,433	2,905
福岡駐車場管理費	83	77	6	(北九州高速道路)	16,684	15,888	795
北九州駐車場管理費	54	50	4	ETCマイレージ還元負担金収入	210	209	1
				(福岡高速道路)	188	186	2
一般管理費	1,690	1,525	165	(北九州高速道路)	22	23	△ 1
一般管理費	1,504	1,349	155	駐車場料金収入	233	227	6
その他	186	176	10	(福岡駐車場)	120	118	2
				(北九州駐車場)	113	109	4
引当金等繰入	34,855	34,139	717	その他	169	169	0
道路事業損失補てん引当金繰入	2,683	2,515	168	受託業務収入	32	32	1
(福岡高速道路)	1,924	1,792	132	負担金事業受入金	1	0	1
(北九州高速道路)	758	722	36				
償還準備金繰入	32,172	31,624	548	業務外収益	200	47	153
(福岡高速道路)	23,388	23,024	364	受取利息	0	0	△ 0
(北九州高速道路)	8,784	8,600	184	雑益 他	200	46	153
受託業務費	32	32	1				
負担金事業費	1	0	1	特別利益	0	12,000	△ 12,000
				道路事業損失補てん引当金取崩益	0	12,000	△ 12,000
業務外費用	3,207	3,389	△ 183				
債券利息	2,721	2,850	△ 129				
借入金利息	253	376	△ 122				
雑損 他	232	164	69				
特別損失	0	12,000	△ 12,000				
償還準備金繰入損	0	12,000	△ 12,000				
当期利益金	23	31	△ 7				
合 計	59,867	68,004	△ 8,137	合 計	59,867	68,004	△ 8,137

(注) 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります。

【道路部門】

(1) 福岡高速道路

- ① 経常収益は、428億400万円、前年度対比30億6,100万円の増となりました。これは、通行台数が前年度に比べて増えたことにより高速道路料金収入が増加したためです。(通行台数は、前年度に比べ1日当たり12,886台の増加)
- ② 経常費用(償還準備金繰入を除く)は、194億1,600万円、前年度対比26億9,700万円の増となりました。これは主に、道路修繕費の増により事業資産管理費が増加したためです。
- ③ 道路事業における収入から管理費と支払利息等を差引いた収支差である償還準備金繰入は、233億8,800万円(対前年度比3億6,400万円の増)となり、道路の建設に投下した借入金の返済に充当しました。

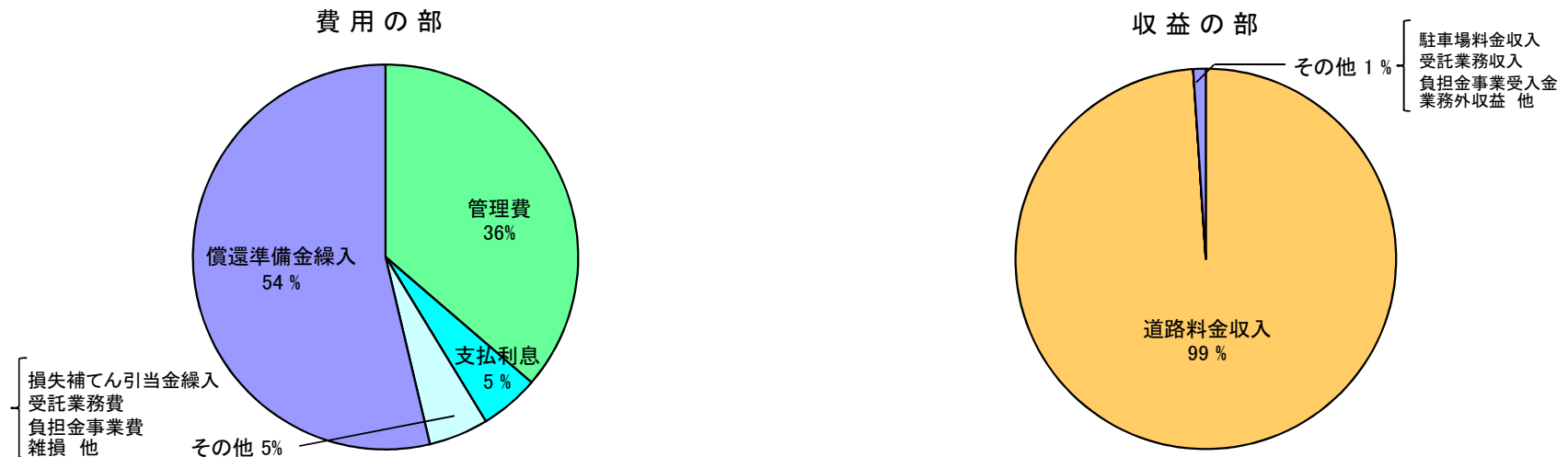
(2) 北九州高速道路

- ① 経常収益は、167億9,500万円、前年度対比7億9,400万円の増となりました。これは、通行台数が前年度に比べて増えたことにより高速道路料金収入が増加したためです。(通行台数は、前年度に比べ1日当たり4,274台の増加)
- ② 経常費用(償還準備金繰入を除く)は、80億1,000万円、前年度対比6億1,000万円の増となりました。これは主に、道路修繕費及び納付消費税の増により事業資産管理費が増加したためです。
- ③ 道路事業における収入から管理費と支払利息等を差引いた収支差である償還準備金繰入は、87億8,400万円(対前年度比1億8,400万円の増)となり、道路の建設に投下した借入金の返済に充当しました。

【駐車場部門】

- ① 当期利益は2,300万円(対前年比700万円の減)となりました。

☆損益計算書の内訳(道路部門・駐車場部門の合計)



4. 営業中道路の収支状況(収支率)

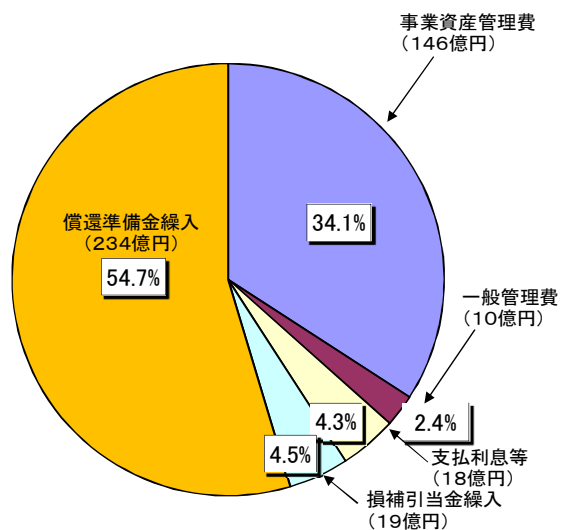
「収支率」は、100円の収入を得るのにどのくらいの費用が必要であったかを示すもの。

(単位: 百万円)

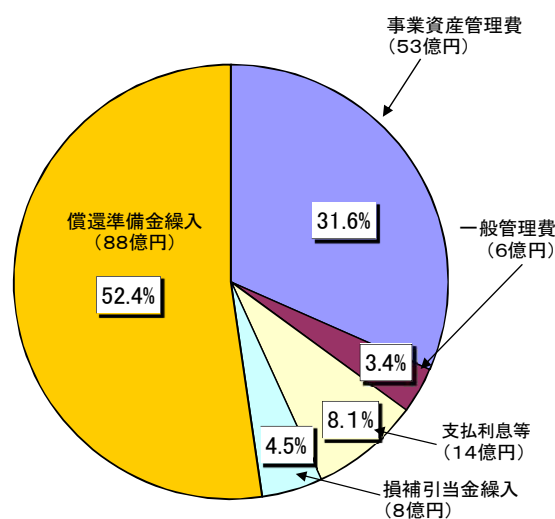
	福岡高速道路								北九州高速道路								合 計							
	収益 A	営業中道路に係る費用					償還 準備金 繰入額 A－B	収支率 B/A× 100	収益 A	営業中道路に係る費用					償還 準備金 繰入額 A－B	収支率 B/A× 100	収益 A	営業中道路に係る費用					償還 準備金 繰入額 A－B	収支率 B/A× 100
		事業 資産 管理費	一般 管理費	支払 利息等	損補 引当金 繰入	計 B				事業 資産 管理費	一般 管理費	支払 利息等	損補 引当金 繰入	計 B				事業 資産 管理費	一般 管理費	支払 利息等	損補 引当金 繰入	計 B		
R04	42,804	14,612	1,039	1,841	1,924	19,416	23,388	45.4%	16,795	5,309	577	1,366	758	8,010	8,784	47.7%	59,599	19,921	1,616	3,207	2,683	27,427	32,172	46.0%
R03	39,743	11,965	900	2,062	1,792	16,720	23,024	42.1%	16,001	4,797	554	1,328	722	7,401	8,600	46.3%	55,744	16,762	1,455	3,389	2,515	24,120	31,624	43.3%

(注) 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります。

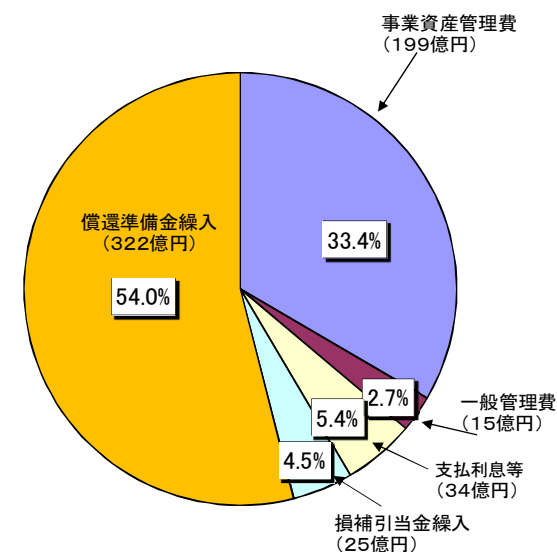
福岡高速(費用の内訳)



北九州高速(費用の内訳)



合 計(費用の内訳)



5. 財務状況

令和4事業年度貸借対照表

(令和5年3月31日現在)

(単位:百万円)

資 産 の 部				負 債 及 び 資 本 の 部			
勘 定 科 目	R4年度	R3年度	増減額	勘 定 科 目	R4年度	R3年度	増減額
	A	B	A－B		A	B	A－B
流動資産	12,827	13,029	△ 202	流動負債	36,732	44,730	△ 7,998
固定資産	1,294,656	1,287,101	7,555	固定負債	388,246	408,184	△ 19,937
事業資産	1,282,721	1,281,334	1,388	福岡北九州高速道路債券	306,000	314,400	△ 8,400
(福岡高速道路)	906,590	905,024	1,566	長期借入金	75,066	86,628	△ 11,562
(北九州高速道路)	376,132	376,310	△ 179	退職給与引当金	158	135	23
事業資産建設仮勘定	1,571	679	892	ETCマイレージ引当金	133	131	1
(福岡高速道路)	1,571	679	892	資産見返交付金	6,889	6,889	0
(北九州高速道路)	0	0	0	特別法上の引当金等	656,919	622,064	34,855
有形固定資産	1,429	1,518	△ 89	道路事業損失補てん引当金	33,157	30,474	2,683
その他	8,934	3,569	5,365	(福岡高速道路)	20,511	18,587	1,924
				(北九州高速道路)	12,646	11,888	758
繰延資産	649	735	△ 86	償還準備金	623,762	591,589	32,172
				(福岡高速道路)	496,939	473,551	23,388
				(北九州高速道路)	126,822	118,038	8,784
				(負債合計)	1,081,897	1,074,977	6,920
				基本金	225,057	224,733	324
				剰余金	1,178	1,155	23
				(資本合計)	226,235	225,887	347
資 産 合 計	1,308,132	1,300,865	7,267	負 債・資 本 合 計	1,308,132	1,300,865	7,267

(注) 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります。

（資産の状況）

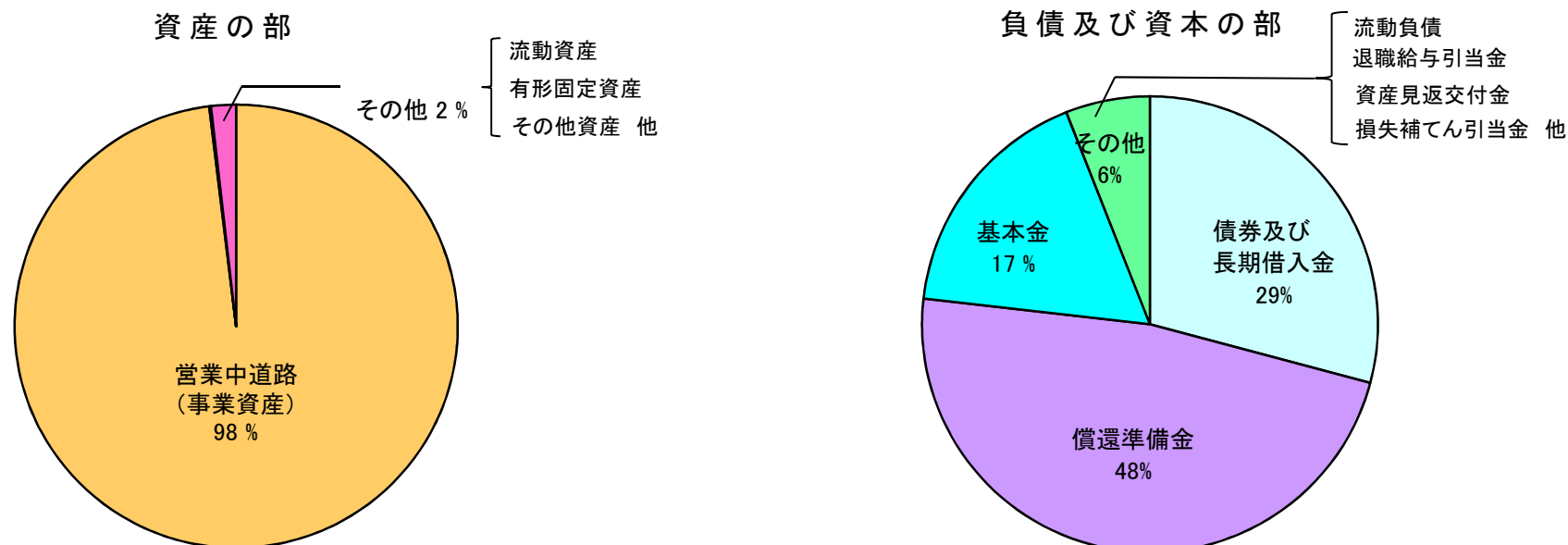
資産の総額は、1兆3,081億3,200万円となっています。このうち営業中道路の価額は1兆2,827億2,100万円で、資産全体の約98%を占めています。

（負債及び資本の状況）

負債及び資本の総額は、1兆3,081億3,200万円となっています。主なものは、道路債券などの借入金が4,105億5,100万円（流動負債計上分の1年以内返済予定債券・借入金294億8,500万円及び固定負債計上分3,810億6,600万円の合計額）、営業中道路の建設・改良に投下した借入金の返済に充てた額（償還準備金）が6,237億6,200万円（福岡高速4,969億3,900万円、北九州高速1,268億2,200万円）、地方公共団体からの出資金が2,250億5,700万円となっています。

（注） 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります。

☆貸借対照表の内訳



6. 償還準備金の積立状況

福岡高速道路						
(単位:百万円)						
	営業中道路の 資産総額 (A)	資産見返 交付金 (B)	営業中道路 (償還対象額) (C)=(A)-(B)	償還準備金 (D)	未償還残高 (C-D)	償還率 (D/C) × 100
R04	906,590	2,313	904,277	496,939	407,337	55.0%
R03	905,024	2,313	902,710	473,551	429,159	52.5%

(+2.5P)

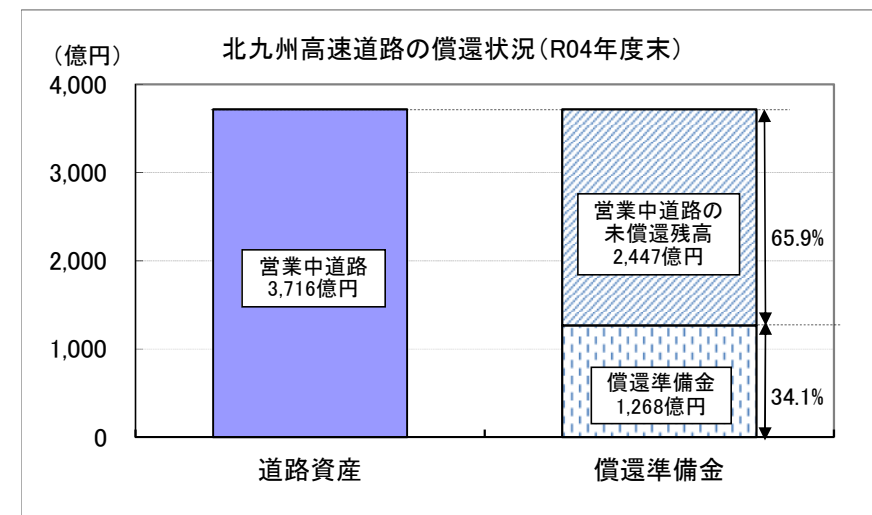
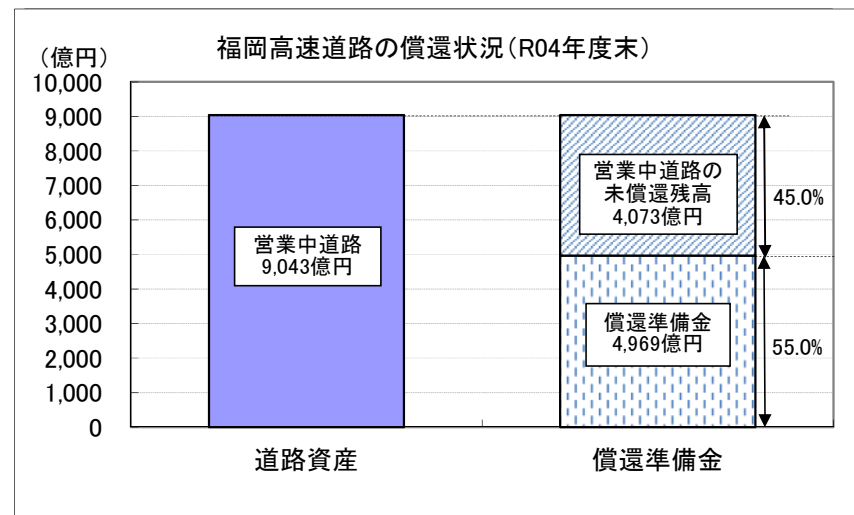
北九州高速道路						
(単位:百万円)						
	営業中道路の 資産総額 (A)	資産見返 交付金 (B)	営業中道路 (償還対象額) (C)=(A)-(B)	償還準備金 (D)	未償還残高 (C-D)	償還率 (D/C) × 100
R04	376,132	4,576	371,556	126,822	244,733	34.1%
R03	376,310	4,576	371,734	118,038	253,696	31.8%

(+2.3P)

「営業中道路(償還対象額)」とは、営業中道路の建設に投下した額の合計額(営業中道路の資産総額)から、償還を要しない資産見返交付金(補助金)を控除した額。

「償還準備金」とは、当該年度末までの償還準備金繰入額の累計額。

「未償還残高」とは、営業中道路について今後償還準備金を積み立てて、返済をしていくことになる金額。



※ 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります。

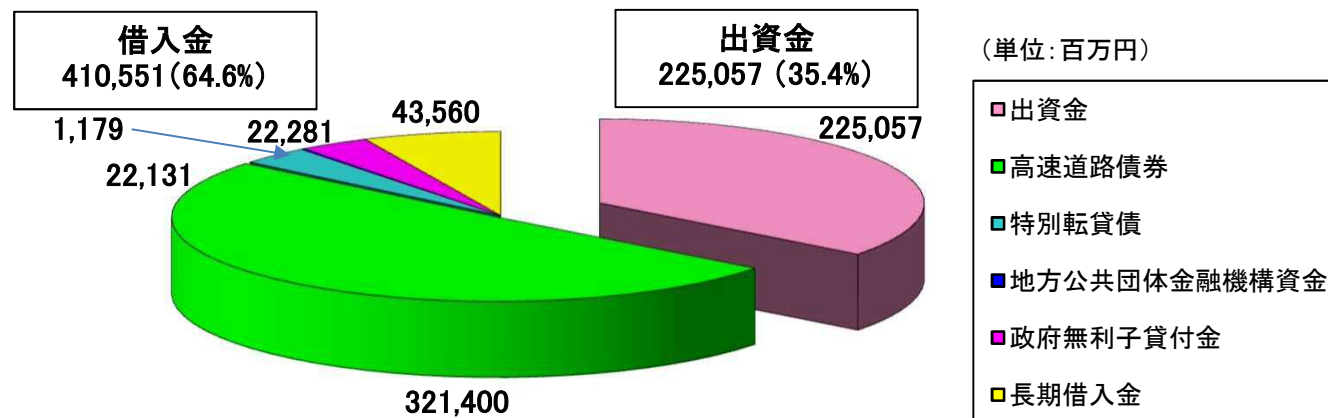
7. 長期借入金の残高状況

令和4年度末借入金残高

(単位:百万円)

		全 体			路線別内訳					
					福岡高速			北九州高速		
		R4年度	R3年度	増減額	R4年度	R3年度	増減額	R4年度	R3年度	増減額
		A	B	A-B	A	B	A-B	A	B	A-B
設立団体出資金		225,057	224,733	324	167,561	167,237	324	57,496	57,496	0
借入金	高速道路債券	321,400	329,400	△ 8,000	179,186	182,364	△ 3,178	142,214	147,036	△ 4,822
	特別転貸債	22,131	32,567	△ 10,436	19,694	29,235	△ 9,541	2,437	3,332	△ 895
	地方公共団体金融機構資金	1,179	1,683	△ 503	950	1,386	△ 436	229	296	△ 67
	政府無利子貸付金	22,281	27,082	△ 4,801	18,856	22,666	△ 3,810	3,425	4,417	△ 992
	長期借入金	43,560	47,550	△ 3,990	13,289	15,940	△ 2,651	30,271	31,610	△ 1,339
	計	410,551	438,282	△ 27,730	231,975	251,591	△ 19,616	178,576	186,691	△ 8,115
合計		635,608	663,014	△ 27,406	399,536	418,828	△ 19,292	236,072	244,187	△ 8,115

(注) 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります。



8. 償還計画と実績の対比

【令和4年度決算】

(単位: 億円)

道路名		収益(a)	費用(b)				償還準備金繰入 (a-b)	償還準備金	事業資産 (交付金除く)	償還率(%)
			管理費(うち消費税)	損失補てん	金利	合計				
合 計	決算	596	215 (38)	27	32	274	322	6,238	12,758	49%
	計画	575	237 (29)	26	37	299	276	6,119	12,758	48%
福岡高速	決算	428	157 (26)	19	18	194	234	4,969	9,043	55%
	計画	399	168 (19)	18	23	209	190	4,851	9,043	54%
北九州高速	決算	168	59 (12)	8	14	80	88	1,268	3,716	34%
	計画	176	69 (10)	8	14	91	86	1,268	3,716	34%

※ 端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります。

●償還計画の対比方法

令和4年度決算(損益計算)と償還計画(収支計算)を比較するため、計画の値に調整を加えています。

償還計画は、福岡高速が令和3年3月の料金認可を、北九州高速が令和4年3月の料金認可を使用しております。

償還率は、償還準備金を事業資産から交付金を差し引いたもので除して算出しております。

●損失補てん引当金

損失補てん引当金は、個々の道路で将来事情の不可測性等により償還計画満了時に借入金等が残った場合に備えて、その補てんに充てるため料金収入の一部を積み立てているもので、道路整備特別措置法に定められています。

すなわち損失補てん金は、決算では費用として扱っていますが、将来のリスクに備え、公社の経営の安定を図る内部保留金としての性格を持っており、その額は借入金の返済余裕を表しています。

9. 令和3・令和4事業年度福岡北九州高速道路公社キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

	R 4 事業 年度 A	R 3 事業 年度 B	増減額 A－B
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
当期償還準備金繰入	321.7	436.2	△ 114.5
当期利益	0.2	0.3	△ 0.1
減価償却費	1.6	1.6	0.1
債券発行諸費等償却	1.1	1.2	△ 0.1
退職給与引当金等の増減額	△ 0.4	0.1	△ 0.4
E T Cマイレージ引当金の増減額	0.0	△ 0.1	0.1
損失補てん引当金の増減額	26.8	△ 94.9	121.7
債券利息	27.2	28.5	△ 1.3
借入金利息	2.5	3.8	△ 1.2
未収金(投資活動、財務活動を除く)の増減額	△ 7.5	9.2	△ 16.7
未払金(投資活動、財務活動を除く)の増減額	△ 10.6	22.0	△ 32.6
その他の増減額	1.2	0.2	1.0
小 計	364.0	408.0	△ 44.0
利息の受取額	0.0	0.0	0.0
債券利息等の支払額	△ 27.2	△ 28.8	1.6
借入金利息の支払額	△ 2.7	△ 3.8	1.1
営業活動によるキャッシュ・フロー	334.0	375.4	△ 41.4
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
事業資産の取得による支出	△ 7.5	△ 15.2	7.6
建設仮勘定の取得による支出	△ 59.9	△ 59.2	△ 0.7
固定資産の取得による支出	△ 2.8	△ 0.4	△ 2.4
事業資産等の売却による収入	0.9	0.0	0.9
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 69.3	△ 74.7	5.5
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入による収入	0.0	0.0	0.0
短期借入金の返済による支出	0.0	0.0	0.0
長期借入による収入	25.2	16.1	9.2
長期借入金の返済による支出	△ 222.5	△ 211.3	△ 11.3
債券の発行による収入	69.8	39.9	29.9
債券の償還による支出	△ 150.0	△ 154.0	4.0
出資金の受入による収入	3.2	1.0	2.2
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 274.3	△ 308.3	34.0
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	0.0	0.0	0.0
V 現金及び現金同等物の増加額	△ 9.6	△ 7.7	△ 1.9
VI 現金及び現金同等物期首残高	77.0	84.6	△ 7.7
VII 現金及び現金同等物期末残高	67.4	77.0	△ 9.6

※端数処理の関係上、合計において合致しない場合があります。

(注記) 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

現金・預金	67.4 億円	77.0 億円	△ 9.6 億円
現金及び現金同等物	67.4 億円	77.0 億円	△ 9.6 億円

10. 料金収入・通行台数・供用延長の推移（全体）

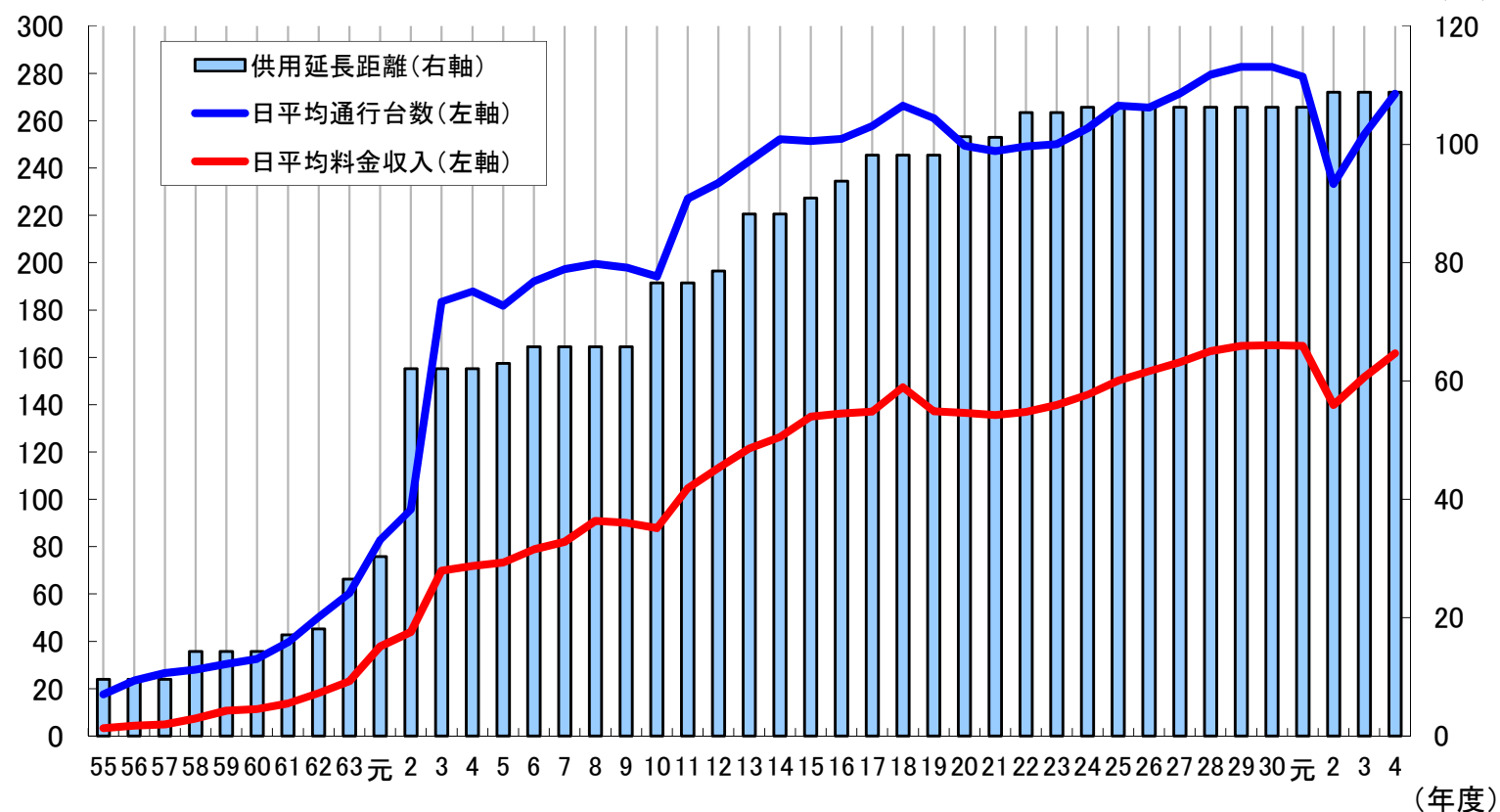
令和4年度

料金収入 **592億円**

日平均料金収入 **1.6億円**

日平均通行台数 **27.1万台**

日平均料金収入・通行台数
(百万円・千台)



供用延長距離	
令和5年3月末現在 108.8km	
料 金	
福岡高速	
普通車	630円
大型車1,	260円
北九州高速	
普通車	520円
大型車1,	050円

1 1. 供用実績

〔福岡高速道路〕

供用区分	供用年月日 料金改定日	供用延長 (km)		供用区間	料 金 (円)	
		区間	累計		大型車	普通車
一次供用	S55. 10. 20	5. 9	5. 9	香椎～東浜	400	200
	S57. 3. 27	－	5. 9	貝塚入口		
	S58. 6. 30	－	5. 9	貝塚出口		
二次供用	S58. 10. 6	1. 5	7. 4	東浜～築港	700	350
三次供用	S61. 4. 23	0. 8	8. 2	千鳥橋 J C T～呉服町		
四次供用	S62. 11. 6	1. 0	9. 2	築港～天神北	800	400
五次供用	S63. 10. 31	2. 1	11. 3	天神北～西公園		
				千鳥橋 J C T (渡り線)		
六次供用	H1. 3. 4	5. 2	16. 5	西公園～百道	1, 000	500
				呉服町～榎田		
				豊 J C T～空港通		
	H1. 10. 1	－	16. 5	料金改定 (消費税3%転嫁)	1, 030	510
	H2. 12. 25	－	16. 5	名島本線料金所拡張		
	H3. 3. 21	－	16. 5	東浜西出口		
	H4. 4. 23	－	16. 5	名島出入口		
	H4. 7. 1	－	16. 5	東浜西入口		
	H5. 4. 2	0. 9	17. 4	香椎東～香椎		
八次供用	H6. 4. 4	2. 8	20. 2	榎田～月隈北	1, 100	550
	H9. 6. 1	－	20. 2	料金改定 (回数通行券料金)		
九次供用	H11. 3. 27	10. 8	31. 0	月隈～水城		
	H12. 3. 28	－	31. 0	貝塚 J C T～粕屋		
十次供用	H12. 11. 21	0. 5	31. 5	貝塚 J C T (渡り線)	1, 200	600
十一次供用	H13. 10. 13	5. 3	36. 8	百道～福重		
十二次供用	H14. 3. 10	1. 9	38. 7	粕屋～福岡 I C	1, 230	620
	H15. 5. 1	－	38. 7	料金改定		
十三次供用	H15. 5. 1	2. 7	41. 4	月隈 J C T～板付		
十四次供用	H16. 6. 27	2. 9	44. 3	西月隈出入口・板付～野多目		
十五次供用	H18. 3. 26	4. 4	48. 7	野多目～堤		
十六次供用	H20. 4. 19	3. 1	51. 8	堤～野芥		
十七次供用	H23. 2. 26	4. 1	55. 9	野芥～福重		
十八次供用	H24. 7. 21	0. 9	56. 8	福重 J C T (渡り線)		
	H26. 4. 1	－	56. 8	料金改定 (消費税5%→8%)	1, 260	630
	R1. 10. 1	－	56. 8	料金改定 (消費税8%→10%)	1, 260	630
十九次供用	R3. 3. 27	2. 5	59. 3	香椎浜 J C T～アイランドシティ	1, 260	630
備 考	福岡高速全号線に、ETC導入 (H18. 4. 1)					

(注) 料金改定日は、一次供用を除き供用年月日の翌日です。但し、料金改定のみの場合は同日です。

〔北九州高速道路〕

供用区分	供用年月日 料金改定日	供用延長 (km)		供用区間	料 金 (円)	
		区間	累計		大型車	普通車
一次供用	S55. 10. 20	3. 7	3. 7	日明～篠崎北	300	150
二次供用	S58. 10. 6	3. 2	6. 9	篠崎北～若園	700	350
				東港出入口		
	S59. 4. 21	－	6. 9	篠崎南出口		
三次供用	S61. 12. 2	2. 0	8. 9	若園～横代		
				篠崎南入口		
四次供用	S63. 12. 17	1. 1	10. 0	愛宕 J C T～下到津		
五次供用	H1. 8. 30	2. 8	12. 8	日明～戸畑（消費税3%転嫁）	720	360
六次供用	H2. 3. 31	1. 0	13. 8	戸畑～若戸		
				東港 J C T～小倉駅北		
				西港出口		
				東港出入口廃止		
七次供用	H3. 3. 31	31. 8	45. 6	春日～馬場山 一部区間料金（4号線）	300	150
					400	200
					500	250
					600	300
					720	360
	H5. 4. 1	－	45. 6	料金改定	720	360
	H7. 9. 30	－	45. 6	山路出入口	900	450
	H9. 6. 1	－	45. 6	料金改定（回数通行券料金）		
八次供用	H12. 7. 26	1. 5	47. 1	長野～横代	1, 000	500
	H12. 11. 1	－	47. 1	料金改定		
九次供用	H13. 7. 2	2. 4	49. 5	枝光出入口～大谷出入口 大谷 J C T		
十次供用	H18. 2. 26	－	49. 5	小倉東IC接続		
	H26. 4. 1	－	49. 5	料金改定（消費税5%→8%）	1, 030	510
	R1. 10. 1	－	49. 5	料金改定（消費税8%→10%）	1, 050	520
備 考	九州縦貫自動車道八幡ICと北九州高速との接続ランプに金剛出口を新設（H17. 3. 31供用） 九州縦貫自動車道八幡ICと北九州高速との接続ランプに金剛入口を新設（H18. 3. 4供用） 北九州高速全号線に、ETC導入（H20. 11. 1） 北九州高速5号線と北九州市道東田出入口が接続（H22. 12. 15）					

（注）料金改定日は、一次、七次供用を除き供用年月日の翌日です。但し、料金改定のみの場合は同日です。